

令和5年度第4回学校運営協議会議事録

- 1 期 日 令和6年3月5日(火) 10:00～11:30
- 2 場 所 西伊敷小学校 校長室
- 3 出席者 加藤 俊文, 脇元 次男, 福德 清和, 米倉 佐和,
大石 博子, 廣司 正良, 有村かおり
- 4 会順及び協議題
 - (1) 開会のことば(10:00)
 - (2) 学校運営協議会長あいさつ(10:00～10:05)
 - (3) 学校長あいさつ(10:05～10:10)
 - (4) 本年度の成果と課題について(10:10～11:10)
 - 学校評価自己評価書(1・2学期)等の説明
 - 学校関係者評価シートへの記入及び報告
 - (5) 令和6年度の学校経営について(11:10～11:25)
 - (6) その他(11:25～11:30)
 - 令和6年度の学校運営協議会について
 - 委員の任期・委嘱について
 - (7) 閉会のことば(11:30)
- 5 協議の内容や意見等
 - 緑丘中学校運営協議会においても、生徒の学力について話題となり、中学生も学力の伸びしろが十分あると感じた。今の時代に合わないかもしれないが、頑張ることや競争することも意識として大事ではないかを感じる。
 - 西伊敷小の学力調査・検査を見ると、一定程度以上の学力の定着が分かる。ただ、学年によって学力の課題はあると聞く中で、課題に応じて長期的スパンで具体策を講じてほしい。
 - 一定程度以上の学力の定着が見られ、素晴らしい。子どもたちには、何のために勉強するのかを考えさせたり、目標をもたせたりして、より学力の定着・向上を図ってほしい。
 - 全ての先生方が研究授業をすることは容易ではないが、実行できたのは素晴らしい。今年度、授業参観もさせていただいたが、よく工夫されていた。子どもに意欲をもたせることの大切さを感じる。
 - 全ての教員が研究授業を行い、授業改善に取り組んだのは大変素晴らしい。教師の熱心さは、子どもにも伝わる。
 - 「立腰」により背筋が伸び、授業に向かう姿勢が変わる。聞くこともよ

り高まり、授業内容の理解につながる。また、体幹も鍛えられる。

- 地域からあいさつの声が小さいとのご意見があったとのことだが、あいさつは家庭教育の側面が強いように思う。家庭と学校で連携をより図ってほしい。
 - 子どもたちはよくあいさつをしてくれたり、横断歩道を渡り終えた後にお辞儀をしたりしてくれている。とても気持ちがよい。日頃の積み重ねが大切であると思われるので、今後も粘り強く取り組んでほしい。
 - あいさつの声が小さいよりは、大きい方がよい。家庭の中では小さい声でも十分であるが、社会の中ではコミュニケーションに支障が出やすいのではないか。そのようなことも、子どもたちに伝えていく必要があると思う。
 - 「みどりの小道」環境日記における環境大臣賞受賞は大変すばらしい。また、清掃等のボランティアを通して、環境がきれいになったという心をより身に付けてほしい。
 - いじめアンケートを毎月実施し、担任や管理職が認知し、対応を図っているのはすばらしい。「事前の一策は、事後の百策に勝る」
 - 自分が保護者だったとき、いじめ問題があった。その時は、「回覧ノート」を作り、学年全ての保護者で情報を共有し、解決につなげることができた。
 - 小学校の子どもや先生方が、地域の方と一緒に活動等をする場面が多くあり、よかった。
 - 本年度は創立50周年ということで地域の方々と様々に関わってきたが、西伊敷小は地域から愛されているということをととても感じた。
 - 朝、立哨ボランティアをしているが、子どもたちはよくあいさつをしてくれる。子どもたちの通学路が若干バラバラになっていることと、車での送り迎えが気になる。
- 6 令和6年度の学校経営について
- 令和6年度学校経営グランドデザインや学校経営方針等について、学校長が説明を行い、委員の方から承認をいただいた。